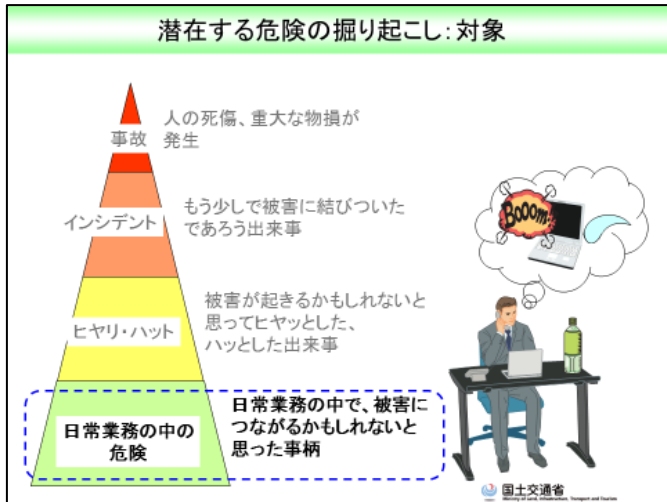


安全推進室だより Vol7

「潜在する危険の掘り起こし」とは？
～日頃から何が起こりえるかの意識を持って～



前回までは事故、ヒヤリ・ハットまでの取組を説明してきましたが、今回は、左図にある点線で囲った部分、「日常業務の中の危険」の掘り起こしについてお話しします。これは、事故やヒヤリ・ハットという形で表に出た事象ではなく、日常の業務に潜んでいて、目に見える事象ではないものの、事故につながるおそれがある「潜在する危険」のことを指します。

潜在する危険を見出す代表的な訓練の一つとして、「危険予知訓練」というものがあります。下の図はバスの車内ミラーに映った車内の様子を表したもので、皆様も一度は見たことがあるかと思います。

この中で気をつけるべき点として ・走っている子供 ・杖をついた人 ・手すりを持っていない酔っ払い ・携帯電話 ・お年寄り ・化粧をしている女性 等が見られますが、この場合どんな事故に繋がるかを乗務員に想像してもらうなど、出勤点呼時にトレーニングとして行っている事業者も多くあります。

また、ドラレコ画像等を活用し、その画像を事故やヒヤリ・ハットに至る前に止めて、「この次何が起こるか」ということを議論するのもいいでしょう。

下図は、もともと、化学工業、原子力などの装置産業で活用されており「HAZOP」と呼ばれるものですが、その手法としては、正しい作業からの「ずれ」を表す言



葉（ガイドワード）を組み合わせ、想定される事故を掘り起こすものです。

バスの停車時の作業を例にしますと、ウインカーを出すタイミング、ブレーキを踏む強さにガイドワードを加えてみると、エラーの内容から想定される事故を見出すことができます。

ガイドワードの例としては、強さ（強く そっと）、速さ（急いで ゆっくり）、程度（余分に 不十分に）方向（反対に 他に）前後（前に 後に）等がありますが、最初に本来の作業の言葉を入れ、安全の状態を確認し、その後、それぞれにガイドワードを加えてみて、どのようなエラーが発生し事故に至るのかの感覚を養う訓練となりえるものです。

★ HAZOPの例				
例：バス停車	本来の作業	ガイドワード	エラーの内容	想定される事故等
	左側方の安全確認	早い	飛び出し自転車への注意不足	自転車との接触
	ウインカーを出す	遅い	直前の停止意思表示	バイク等の後方側面接触
	ブレーキをかける	強い	急激な減速	車内転倒 後方追突

目に見える事象対策に加え、潜在する危険の掘り起こしまで行うことは大変な事ではありますが、日常業務の中で、**日頃からそういう目を持って業務にあたるという意識を持ってもらうことが大事なのです。**